

9月3日(金) 2年生「がん教育」

平成27年に出された「がん教育」の在り方に関する検討会の報告で、「学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが求められる。」とあります。

また、平成29年3月に告示され、今年度から全面実施になっている中学校学習指導要領にも「がんを取り扱うこと」が示され、保健体育の保健分野の学習の中で「生活習慣病などの予防 がんの予防」に次のように示されています。

〔がんの予防〕

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

このことから、本校でも2年生で、「がん教育」の時間を持ちました。

「滋賀県健康づくり財団」協力のもと、旧県立成人病センターに勤務されていた水田先生に次のことを目的とし、

【目的】

がんは身近な疾病であり、日本人の死因第1位である。がんについて正しい知識を学ぶ。また、がんは生活習慣病の一つとされ、運動、食事、休養などの習慣にも影響されることを理解し、どのようにすればがんは予防できるかを考える。

オンラインで講演いただきました。

「日本人がなくなる原因の28%ががんによるもの」で、「がんという病気はまれなものでなく、ありふれた病気であること」。「正しい知識」と、「対処」により「予防」できたり、「早期治療」できたりする。「がん予防に生活習慣が大きくかかわっている」などのお話がありました。

最後に、「がんは急にできるわけではない」「がんは誰もがなりうる病気」「初期は無症状」「予防可能ながんもある」「早く見つければ治るがんもある」「治った人、治療を受けながら仕事をしている人がたくさんいる」、そのために「火の用心(予防・検診)が大切」とまとめがありました。

今日の学びを家に持ち帰り、家族の話題にしてほしいものです。